



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.01

ARTIST  
NO  
KOSODATE?

アーティスト  
の  
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 30代

03 性別 女性

04 子どもの数 1人(第2子妊娠中)

05 子どもの年齢 1歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、  
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

妊娠がわかった時は非常勤講師の仕事をしていました。1年ごとの更新で、次年度もお願いされていたのですが、年度途中で講師が変わるのは避けたいとのことで、その年で任期満了のため退職となりました。その後出産までの間は自宅で別の仕事をしていました。

今は、講師、デザイン業、小売業をしています。講師の仕事は、主に美術館でのワークショップと、専修学校でデザインとファッションを教えています。デザイン業は、依頼があった場合のみお受けしています。主にカタログや書籍、ポスターなどの制作です。小売の仕事は、子どもの保育園を申請する際に定期的な事業をおこなっている必要があったため始めた仕事です。住んでいる自治体の募集要綱によると、子どもを標準保育で保育園に預けるには、月64時間以上働いているというのが条件なんです。収入は問われていないので、もしかしたら作家で申請しても良かったのかもしれませんが、第一子ということで状況もわからなかったし、会社に勤務されている方などに比べると、保育の必要量が低いと判断されるのではないかという不安があったので、個人でできる仕事として選択しました。講師の仕事以外は、在宅になるので、子どもの具合が悪い時など急に保育園へ迎えに行かなければならない時もすぐに対応することができます。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？  
または過去に利用しましたか？

はい  いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

保育園  通常保育  一時保育  認可  認可外  幼稚園  ファミリーサポートセンター  
 その他

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

保育園や学校に行っている間  睡眠時間を削る  子どもが寝てから  早朝  実家・親に預ける  
 配偶者に預ける  仕事の合間  仕事が休みの日  捻出できない  その他

今は睡眠時間を削って作業しています。なかなか寝てくれない子で、夜中の0時頃まで寝かしつけられないことも度々あります。そこから制作するにしても、翌日のことを考えるとできて2時くらいまでが限界かな。もちろん、寝かしつけながら子どもと一緒に寝てしまうこともあります。その場合は、朝の5時くらいから起きてやっています。

**10** 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？  
およその時間を教えてください。

- ① 育児：0時間 → 7～8時間(平日) 0時間 → 15～16時間(休日)
- ② 作家：4時間 → 0～2時間
- ③ 仕事：6～8時間 → 8時間

**11** お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

出産前は海外や地方で活動することもあったので、アトリエは持たず自宅で作業をしていました。現在も自宅です。ただ、以前は一部屋使っていたところ、最近は子どもの物がどんどん増えていってしまったため、その部屋は物置きにして、今はダイニングスペースに机ひとつ置いて作業しています。

**12** お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

今のところはまだないかな。子どもと過ごしている中で、作品に使えるようなものがあれば使いたいとは思っていますが、まだ具体的な形には至っていないという感じです。基本的に物事を直接的に表現するというよりは、何かに見立てて再構成するような手法をとっているのので、いわゆる「子育て」や「子ども」がダイレクトに形に出てくることはないと思います。

**13** コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

保育園で子どもが3回濃厚接触者に認定されたり、園でクラスターが発生して休園になったりしました。休園期間は確か、1週間～10日程度だったと思います。濃厚接触者になると体調に問題がなくても指定された日まで園には通えません。また、感染の可能性があるということで一時保育や他の施設も使えないため、日中は子どもと家で過ごしていました。小売の仕事は人に頼める部分は頼んで、あとは子どもが寝ている時間にしていました。なのでこの期間は制作の時間はありませんでした。講師の仕事は午後からなので、午前中は私が子どもをみて、午後は夫にフレックスや半休で帰ってきてもらう形でなんとか乗り切りました。

**14** 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

まだ小さいので、子どもと一緒にいるときは制作できませんが、作品に使えるものはないかなと頭の片隅で考えるようにはしています。気になったことはスマホで写真を撮ったり、メモをとったりして素材を集めています。

**15** 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？

友人に子育て中の作家が何人かいるので、相談することは可能です。その中の1人はペインターですが、以前話した際に、やはり子育てをしながら制作していくのはなかなか厳しいと言っていましたね。

**16** 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

- リサーチ  制作  展示  ワークショップ  アーティスト・イン・レジデンス  その他

作家活動に関わることは全てやりたいです。ただ、一番はとにかく展示をしたい。今まではお声がけいただくこともありましたが、出産後はぱったりなくなってしまったのと、自分で展示のきっかけを作っていく作業が滞っ

てしまっている現状があるので、展示をする機会を継続的に持つ体制を整えたいですね。

### 今の状態で展示するとすれば、どういう形式ならできそうですか？

今までも制作環境や場の状況に合わせて作品の形式を変えていたので、今ある材料を最大限に生かしてやっていきたいです。今は妊娠中なので、以前のように現場に入って高所作業をしたり重い資材を持ったりすることはできないと思うので、そういった場面があれば他の方をお願いして進めていければと思います。

空間全体を使ったインスタレーションであれば新作ができるかもしれません。展覧会のテーマに合わせて過去作を交えて構成することもできると思います。

(複数人で展覧会を作るのも) いいと思います。一人じゃできないことができたなら面白いだろうなとは思っています。

## 17 作品制作を継続するためには何が重要だと考えますか？ 特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

家族の協力  ひとりの時間  収入  美術に関する仕事への就労  仲間の存在  その他

家族の協力と理解は大事ですね。幸い夫は家事も育児もとても協力的で、私が作家であることも結婚前から知っているので活動を理解してくれています。出産直後から子育ては2人でしていますが、もし親からの支援を日頃から受けられる環境にいたら、もう少し作家としての時間が増やせるのかなと思うこともあります。

また経済的なゆとりも作家を続けていく上では大切な要素になると思います。制作する時間を確保することに加えて多くの作家は制作費も捻出していかなければなりません。経済的なゆとりがあれば、どうしても外せない展覧会に関わる予定や夜間での作業の際に、シッターさんに子どもをお願いすることも可能かと思えます。

### 自分の収入は全部制作に使えますか？

収入の全てを制作費に充てることはできませんが、制作費は自分で賄うようにしています。

### 保育園以外に子育て支援サービスは利用しましたか？

住んでいる地域に子育て支援センターがあって、入園する前はよく行きました。そこで生後6か月以下の子どもを持つ親の座談会に参加したりしましたね。職員さんが進行役で、育児に関する悩みなどを共有するような場でした。子育てをする環境や子どもの性格にもよるので、必ずしもそこで問題が解決されるわけではないのですが、同じような状況の人が周りにいることを認識でき、安心感のようなものを得られたと思います。また乳児はひと月ごとに成長の過程に変化があるので、同じくらいの月齢の子どもたちと触れ合うことで、子どもの成長過程を知る機会にもなりました。

### ご近所の子育て中の方との交流はありますか？

隣に住んでいる方も同じくらいの年齢のお子さんがいらっしゃるので、情報交換したり、近況を話したりといった交流があります。今はコロナ禍なので、それぞれの家で子どもと一緒に遊ばせたりすることはなかなかできませんが、災害など万が一何かあった時に近所に頼れる方がいると安心ですよ。

## 18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、 子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。

例のところをいうと、「託児」と「ゆとりのある搬入・搬出スケジュール」ですね。託児に関しては、同じフロアや建物内に子どもを預けられる施設があれば、滞在制作や会期中のイベントなどにも気持ちに余裕を持って対応することが可能になると思います。また、ゆとりのある搬入・搬出スケジュールは、作品のスタイルにもよるので、必ずしも全ての作家が必要というわけではないかもしれませんが、子どもが急病の時などは、その期間内で調整ができるといいですよ。打ち合わせなども、例えばあらかじめ時間をいくつか確保いただいて、もし当日ダメになってしまっても他の日で調整いただけるような体制があるといいですね。子育ては何があるかわからないので、絶対この日って決まっていると、万が一の時に対応するのが難しいかと思えます。そういう状況をご理解いただいた上で、ゆとりあるスケジュール、あるいは柔軟に対応いただけるような環境が整っているといい

なと思います。

「作家同士の情報交換会」「子育て経験のある作家の体験談を聞く」に関しては、先ほどお話しした子育て支援センターの座談会と同様で、子育てをする環境や子どもの年齢、性格にもよるので、必ずしもそこで得た情報が作品制作に役立つかは分かりません。ただ、子育て中という同じ状況下で、作品制作に取り組まれている姿から共感や心強さのようなものを得ることができるかもしれません。

こうしたインタビューをアーカイブ化するのは大切なことですね。子育ては1年後、2年後、そして5年後、10年後で状況が変わってくると思います。ですので、1回で終わらないで継続的にインタビューし、アーカイブ化することが重要になると思います。それを出産前の作家さんが読んだとして、ああ子育てってこういう風に進んでいって、例えば、この作家さんは数年は活動できなくても、この段階でまた復帰してるんだとか、なんとなく今後の道筋を示せるかもしれません。

私が思う子育て中の作家にとって一番の助けとなることは、作家活動を継続するために必要な支援だと思います。これは作家に限らず、お仕事を継続したいと願っている全ての方に言えることかと思いますが、出産、育児でキャリアが中断されてしまうのは精神的に大きなプレッシャーになります。もちろん、力のある作家さんはどんなにブランクが空いても一線に戻ってこられると思いますし、売れっ子の作家さんであれば、出産しても継続的にお仕事をいただけると思うんです。ただ、自分も含めてそうじゃない作家さんもいっぱいいる。もちろん実力は必要だと思いますし、状況によってはできることは限られているかもしれないけど、子育て中だからこそ展示の機会や作家活動に関わるお仕事などにお声がけいただけると、出産、育児に関わらず活動を継続していくことができると思うんです。それが作家としての自信になるし、長期的にみて作品の質の向上にもつながっていくと思います。

## 19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

子どもが自立すれば、家を空けることも可能になると思いますので、地方や海外での仕事、滞在制作や展覧会、プロジェクトなどを再開したいです。



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.02

ARTIST  
NO  
KOSODATE?

アーティスト  
の  
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 男性

04 子どもの数 1人

05 子どもの年齢 5歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、  
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

写真撮影と、映像制作と、大学の非常勤講師をしています。ただ写真撮影と映像制作は、商工会議所や市役所といった関係団体と一緒に協力して、中小企業をサポートし地域を復興させるというかたちで仕事をしています。

**その仕事はご自分で探されたのですか？それともお声がかかって始めたのですか？**

今住んでいる場所はもともと縁もゆかりもなかったので、自分から関係を作っていこうと思って、市のプロジェクトとか色んなものに参加するようにしたんです。そのつながりからお声がけいただきました。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？  
または過去に利用しましたか？

はい  いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

保育園  通常保育  一時保育・  認可  認可外  幼稚園  ファミリーサポートセンター  
 その他

保育園は1歳から。幼稚園は3歳（年少）から。

今は保育園と幼稚園両方通わせていて、幼稚園の降園後に妻の職場の院内保育へ行かせています。保育園は妻の仕事の間子どもを預かってくれるので、妻の仕事が休みのときは保育園には行きません。朝幼稚園に行って帰ってくるのは14時頃で、幼稚園バスで自宅の前まで帰ってきて妻が面倒を見ます。妻の出勤日は、幼稚園バスでアトリエ前まで帰ってきて、そこから僕が保育園に連れていきます。僕が保育園に連れていけない時は、幼稚園で18時まで預かってもらいます。少し複雑なので、妻の仕事のシフトが決まると、夫婦で子どもの送り迎えを話し合っています。

そもそも、子どもを幼稚園バスの降車場所から保育園へ預けやすいような場所を探して、今のアトリエへ引っ越しました。元のアトリエの場所では、幼稚園の後、保育園に預けられない。それに、前のアトリエは葉山にあって、すごく静かでいい所だったのですが、この時代に仙人みたいな暮らしをしていたらダメだなと思って（笑）。人と接したり、情報に触れたりする機会を求めて、妻の職場に近くて商店街の中で人通りも多い今の場所に移りました。そこでアトリエ兼アーティスト・ラン・スペースを立ち上げました。月に6日ほどしか開廊していませんが、スペースができたのでやれることが広がりました。

**ご両親はお近くにいらっしゃいますか？**

夫婦両方とも出身が関西なので、親は近くにいません。

**09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉**

- 保育園や学校に行っている間  睡眠時間を削る  子どもが寝てから  早朝  実家・親に預ける  
 配偶者に預ける  仕事の合間  仕事が休みの日  捻出できない  その他

朝3時に起きて、6時ぐらいまでアトリエで仕事し、いったん家に帰って子どもを起こします。その後、幼稚園や保育園に行く身支度をさせ、7時に送り出した後、アトリエに戻って仕事をしています。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？  
およその時間を教えてください。**

- ① 育児：0時間 → 4時間  
 ② 作家：6時間 → 6時間  
 ③ 仕事：5時間 → 1～3時間

子どもができると制作時間が減るので、一人でできる仕事に絞ることにし、業務提携していた他の仕事を減らしました。アーティスト・ラン・スペースに関する仕事量が思いのほか多くて、最近はその仕事が全体の3分の1はあります。ここは地域という素材を生かしたアートプロジェクトをしていこうと思って作った場所で、年間3回展覧会を開催しており、ここでのプロジェクト自体も自分の作品だと思っています。

**11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？**

変わりました。変えなければやってられなかったですね。

制作は家ではやらないです。一人で集中できるアトリエです。

**12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？**

子育てするなかで、子ども向けの本や童話、アニメなどを見る機会があって、それが作品に影響することはあります。きかんしゃトーマスをモチーフにしたりね。

メディアとして、写真や映像を使うのはずっとは変わらないですけど。

あと、子どもという自分の分身ができた時に、自分のアーティスト人生はこの子に引き継がれるのかなぁと思いました。人それぞれ到達点は違うと思うけど、僕はアーティストとして、明らかに自分の中の到達点には達していない。それで、もしかしたら自分はここまでで、これからは子どもがやろうとすることを支援する側にまわるのかなぁと思いました。それを考えること自体は負けなんですよ。だからまずいな、この強迫観念を何とかしないといけないなと思いました。

**それは子どもが生まれた直後に思ったのですか？**

いえ、だんだん大きくなるにつれてです。子どもをアーティストにするつもりはないし、アーティストになりなさいとも言わないけれど、ひしひしと感じました。子どもも自然にカメラをいじったりして、撮ったものが面白かったりします。

**お子さんがライバルになりつつある？**

ライバルというか、敵視してしまう(笑)。敵視した時点で自分は負けていると思うのですが、子孫を残すというのはこういうことなのかな。

**親を超えていけ、とは思いませんか？**

全然思わない(笑)。僕もずっと走りつづけますもん。いつか追いつかれる時が来るかもしれませんが、でもそれは完全に僕の死の時です。



**13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？**

第2波ぐらいの頃に僕も妻もコロナにかかりました。幸い子どもはかからなかったし、症状は軽かったのでよかったのですが、コロナというのは気を付けていてもかかると身をもって知りました。それから、コロナ禍で幼稚園が2週間ちょっと休園になりましたが、自分が会社員ではないので何とか耐えました。

それから、このアーティスト・ラン・スペースをつくったのが2019年で、ちょうどコロナが流行る頃だったので、計画を変更せざるを得ないこともありました。その間に法人を設立したり、市や企業の助成金を申請するなどして、それなりに活動できました。

**14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？**

子どもと一緒に夜9時か10時ぐらいに寝て夜中3時に起きるとというのが、子育てにおける工夫でしょうかね。子どもが寝ている間に自分の時間を作っています。

**15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？**

身近にはいないですね。子どもが何歳になったってことくらいは話しますよ。でも、みんな子どもを言い訳にしちゃダメだと思っているから、子どもがいて制作が進まないというようなことはあまり話さないです。

**そのアーティストの方は男性ですか？女性ですか？**

ああ、女性は確かに少ないかもしれないなあ。

**16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。**

リサーチ  制作  展示  ワークショップ  アーティスト・イン・レジデンス  その他

ここにある項目全部です。最近、遠方へのアーティスト・イン・レジデンスへ応募したのですが、もし審査に通ったら行くつもりでした。子どもを連れて行ってもいいし、例えば2か月間ずっとそこに滞在するわけではなく、お金はかかるけど、1週間に1回帰宅することもできますから。

**応募する前に奥様に、受かったらこういうことになるけどいい？というような相談はされたのですか？**

もちろん。まあ快くは承諾してもらってないと思いますが。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？  
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

家族の協力  ひとりの時間  収入  美術に関する仕事への就労  仲間の存在  その他

収入でなくてもお金は絶対です。あとは目標ですね。アートフェアに作品を出せるとか、アーティスト・イン・レジデンスに行けるとか、その都度チャレンジできる目標が必要です。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、  
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

僕らはアーティストであることにプライドをもち、子育ては言い訳にしたくないなと思っています。でも、子育てしているアーティストは敬遠されがちです。もし手助けをしてくださるのでしたら、気を遣わないでほしいですね。子育てをしていないアーティストと同じ土俵にいるつもりだし、いつまでも若い人と同じようにガツガツしたい。平等に扱ってほしいですね。

**男性アーティストでも子育て中は機会が減りますか？**

たぶん男性もです。展覧会に呼ばれる機会が減るということを目撃しています。気のせいかもしれませんが、僻んでいるだけかもしれませんが。

ただアーティストっていうのは、何かしらの横のつながりがあって展覧会に呼ばれることが多いわけで、そのネットワークにいない人は、選ばれにくいと思います。だから子育て中だという情報は、プロフィールには出てなくても伝わっていると思うんですね。そうすると要らない配慮をしてくれますよ。だからアーティストは「子育てしてます」ということをあまり言わないんじゃないでしょうか。もしかしたらキュレーション側とアーティストが対等じゃないことが背景にあるのかもしれないですけど。こうやって子育て中のアーティストを面白がってもらう方がありがたいですよ。

**19** **お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？**

ドイツなど、自分のことを誰も知らない海外に行って活動したいです。必ずしも映像と写真にこだわるつもりはありません。



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.03

ARTIST  
NO  
KOSODATE?

アーティスト  
の  
子育て

01 住まい 愛知県

02 年齢 40代

03 性別 女性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 15歳、1歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、  
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

今はしていません。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？  
または過去に利用しましたか？ はい  いいえ ※第一子のみ

二人目の子が今1歳5か月なのですが、3歳くらいまでは保育園には入れず、手元で育てようと思っています。ただ、あるシュタイナー保育園から私に仕事が回ってきそうで、その場合は、2歳半くらいから保育園に通わせるかもしれません。もし仕事が決まれば、保育士としてかかわっていくことになると思います。

保育士の資格をお持ちなのですか？

はい。一人目の子は今15歳なのですが、幼い時にシュタイナー保育園に通っていてとてもよかったので、私も学びたいと思って保育士の資格を取ったんです。それから時々保育士として働きました。シュタイナー保育園はすごくクリエイティブで、フェルトの人形をつくったり、にじみ絵といって抽象的な水彩画を描いたり、手を動かすことが多いので、雰囲気もとても素敵なんです。そういう中で仕事をしていたので、自分も成長していったんじゃないかと思っています。作品も、それにつれてだんだん柔らかくなっていきました。

だから二人目の今回もあまり焦らず、今は内に貯めていく時期なんじゃないかと思って、外へ外へと表現しようという風に躍起にならないようにしています。でもそれがみんなにとって一番いいやり方なのではなく、制作を頑張れる人は頑張ればいと思うし、そういう時期も必要ですね。

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

保育園  通常保育  一時保育  認可  認可外  幼稚園  ファミリーサポートセンター  
 その他

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

保育園や学校に行っている間  睡眠時間を削る  子どもが寝てから  早朝  実家・親に預ける  
 配偶者に預ける  仕事の合間  仕事が休みの日  捻出できない  その他

はっきり言って、今子育てと制作は両立してないです。というのは、一人目の子に比べて、二人目の子はものすごい暴れん坊さんなんです。同じ人から生まれた子とは思えないくらいまるっきり違って手がかかるので、体力

勝負です。夜泣きもずっとひどくて、生活するので精一杯という感じが続いています。一人目の子は楽で、6か月以降はぐっすり寝てくれたんですが、二人目の子は夜中4、5回起きて、特に生後1年間は大変でした。もう私ポロポロで、起きている時も寝ることしか考えていませんでした。だからクリエイティブなことができる脳ではなくて、ご飯作ればまあいいかという感じ。

一人目の時は、子どもが寝たらすぐデザインしたり、簡単な絵を少しずつ描いたりしていました。まだ現役のアーティストでやっていこうという気持ちが強かったので、絵を描きたいのに育児に時間を取られてしまい、結局どちらにも集中できなくてイライラすることがありました。ただ、細切れに努力を続けて、かたちができたものもあったので後悔はしていないのですが、長い目で見ると、子どもが小学校に入って自分の自由時間ができ、集中して創作に向かうことができるようになってからの方が、結局は充実したものができました。

その経験から言って、いつかはそういう時期が来るだろうというのが分かっているのですが、二人目は、少なくとも保育園に入るまでの2、3年は、創作に精を出そうとキリキリするよりは、子育ての中から自分が学ぶこともあるんじゃないかなと思っています。一人目の育児の経験を活かして、体力的につらい分、精神的にカバーしている感じです。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？  
およその時間を教えてください。**

- ① 育児：0時間 → 18時間
- ② 作家：4～5時間 → 1時間
- ③ 仕事：8時間 → 0時間

**11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？**

家で制作するというのは変わりません。でも、子どもが小さい時は寝ている時間にこそこそやるという感じで、学校に行くようになると、リビングルームやスタジオを作って制作するようになりました。以前は油絵もやっていたので、子どもが5歳くらいになっても画材は手の届かない高いところに置いていました。一人目の子はダメって言ったら触らなかつたんです。でも二人目の子は触るだろうな(笑)。なんでも口に入れるので。

**12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？**

テーマ自体は何も変わっていないと思うのですが、手段が変わりました。子どもが生まれる前はスプレーを使ってグラフィティをかいていた時期もあって、制作途中の絵を机に置いたままにしていたので、小さい子がいるとちょっと危ない空間でしたね。

子どもができて、シュタイナー教育とかかわるようになってから、自分の生活も意識して変えていき、作品もどんどん柔らかくなっていきました。例えば子どもが小さい頃は、寝ている間に絵日記をつけるような感覚で思いついたことを描いたり、手元にある封筒に描いたりして、時間をかけずささっとできるようなものをやっていました。その後、染物をベースにした作品に変わっていったのですが、生活している環境によって、ずいぶん作風は変わったと思います。

**過去にオーストラリアでお住まいだった時期がありますが、子育て環境はどんな感じでしたか？**

オーストラリアは景気がよいので、日本と比べて無料で行ける美術館やギャラリーがとても多いです。小さな子どもを連れて、公園に散歩に行くみたいに行けるので、敷居が低いというのはありますね。子育て中のアーティストがアートとつながっているために、毎週末にでも美術館に行くことができます。それから、交流仲間に、クリエイティブな子育て中のお父さんお母さんが集まっていたので、絵を描いたら見せ合ったり、家に行ったら作

品を購入したりする機会もあって、本格的に展覧会をしようというわけではないけれど、気軽にサポートできる環境だったと思います。

**オーストラリアでは、育児における男女の負担の差について問題になっていましたか？**

オーストラリアの方がフェミニズムが強いのと、私が一緒に過ごしていた人たちがたまたまそうだったということかもしれませんが、夫も育児にかかわるのが当たり前という考えの人ばかりだったので、そこまで不公平という感じはなかったです。私は授乳期間が長くて3年間授乳していたので、その間はやはり私の方が負担が大きかったかもしれませんが、その代わりお皿洗いは夫がするとか、日本と比べて過ごしやすい環境だったかな。あとは、日本に比べて女性が育休後に仕事に復帰しやすく、休んでいたことがハンデになりにくいかもしれません。

**13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？**

(該当しない)

**14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？**

(該当しない)

**15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？**

相談相手はアーティストである夫です。今自分たちはインスピレーションを収集する時期だという認識で、今回はお互いゆっくり構えている感じです。

**16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。**

リサーチ  制作  展示  ワークショップ  アーティスト・イン・レジデンス  その他

お話ししていて、作りたいなという気持ちがむくむくっと湧いてきました。子どもを見ながらでもできる範囲だったら、作品のパーツを少しずつ作ってもいいかなと思います。それらを実際に広げてつなげる作業はいつになるかわからないけど、発酵料理を仕込むような感じで、いろんな豊かな材料を作り始めたいなという感じですね。下の子が3歳以上になってもう少し時間が取れるようになったらやりたいと思います。

**アーティスト・イン・レジデンスは子どもが小学生以上になってもなお難しいでしょうか？**

以前、私はFASのアーティスト・イン・レジデンスに参加するために、2か月間家を離れました。当時子どもは一人だけで、小学6年生になってしっかりしているので大丈夫だろうと思ったし、私は制作に専念できてとてもよかったんですが、その時ちょうど子どもには学校でストレスがかかることがいくつかあったようで、私が不在だったことが重なって、脱毛症になってしまいました。1か月くらいで治ったのですが、本当にぎょっとするくらいになったので、まだあんまり離れちゃいけないんだなと思いました。それがあって、今回二人目では慎重になっているということもあります。やはり小学生の子どもにも何かサポートがあったらいいのかもしれないですね。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？  
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

家族の協力  ひとりの時間  収入  美術に関する仕事への就労  仲間の存在  その他

まずはひとりの時間が必要。二つ目は家族の協力です。昔はお金がないとだめだと思っていたけれど、ある程度生活できればそんなにお金がなくても制作はできるものだから。ただ、家族の理解がなければやはり継続は難しいです。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

子育て中のアーティストにもワークショップを依頼して下さるといいですね。それがきっかけになって、自分の制作を考えられるかもしれないし。一般的には、夫が一生懸命外で働いて稼いでいて、自分は家で子育てに専念していると、制作という利己的な、自分のための作業は優先させづらいですね。結局それが生活費につながるから。実際に、一人目の子どもの時にちょっと制作に没頭してしまい、お皿も洗わずに夫の帰宅時間になって、「いいね、君はやりたいことができる時間があって」みたいなことを何回も言われました。お金とつながらないと、結局は趣味の領域になってしまうんです。

でも、きちんと仕事としてワークショップの講師を依頼されれば、たとえ少額の謝礼だったとしても、堂々と家で準備できるし、出かけても行けます。特に子育て中の女性にとってはありがたいことなんじゃないでしょうか。単発で短時間のお仕事だったとしても、仕事として周りから認知してもらえることは重要で、アーティストとして精神的にも支えられます。

それから、FAS に託児サービスがあったら本当に素晴らしいですね。アーティストというのがまさに仕事として認められたということが前提になると思うので。

他に、もしあったらいいなと思うのは、長期的な視点での展示の機会です。例えば子どもを産む前と、子どもが1、2歳で四苦八苦している時と、もう少し大きくなって自分の時間が取れるようになってきた時とで、作風がどのように変わっていったか、親になることでどのように内面的に成長したか、あるいはしていないかの変遷が追える展示ができれば嬉しいです。以前 FAS で展示した経験があるアーティストにも、一度展示したから終わりではなく、例えば5年後どんな作品を制作しているか、声をかけて下さるといことがあったら、今はこんな感じですよ、と喜んでお伝えしたいです。

**19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？**

今後変わるかもしれませんが、染物をベースにした居場所づくりがしたいです。